



《陽春・私の富士》2004年
162.1×130.3cm



《恕》2015年
193.9×259.1cm

讃歌・緑と水と太陽 さくら 櫻井孝美展

奔放な筆触と鮮やかな色彩の織りなすドラマが、唯一無二のエネルギーに満ちた世界を顕現する洋画家・櫻井孝美（1944年埼玉県生まれ、土代会代表）。このほど河口湖美術館、富士河口湖町、富士河口湖町教育委員会主催のもと、約60年居を構える地元山梨県にて過去最大規模となる個展が開催される。

日本大学芸術学部美術科にて野口弥太郎、山本正、斉藤長三、麻生三郎、糸園和三郎ら錚々たる先人洋画家たちからの薫陶を受けた櫻井は、卒業後霊峰富士の威容に大いなる衝撃を受け富士吉田市にアトリエを構えた。1976年には卒業生有志と共に土代会創立に参加。鮮烈な色彩表現と躍動感あふれるエネルギー豊かな作風は次第に注目を集め、84年山梨県新人選拔展で山梨県立美術館賞、87年第22回昭和会展で昭和会賞、88年には当時洋

画壇の登竜門といわれた安井賞展で最高賞である安井賞を受賞し一世を風靡。爾来「緑と水と太陽」「人間讃歌」をテーマに人生の悲喜交々を画中に表すべく描き続けている。昨年傘寿の節目を迎えた櫻井は言う。「80歳を迎えて今更思ふことというのは、やっぱり絵というものは永遠に答えないものを探し続ける旅なんだなということ。当たり前だけれど完成はないですね。それでも完成されたものができればいい。過去に立派

讃歌は人種も国籍もこえて

展で最高賞である安井賞を受賞し一世を風靡。爾来「緑と水と太陽」「人間讃歌」をテーマに人生の悲喜交々を画中に表すべく描き続けている。昨年傘寿の節目を迎えた櫻井は言う。「80歳を迎えて今更思ふことというのは、やっぱり絵というものは永遠に答えないものを探し続ける旅なんだなということ。当たり前だけれど完成はないですね。それでも完成されたものができればいい。過去に立派

好機となるに違いない。北斎、大観、広重——かつて富士に材をとり生み出された数々の傑作は海も時代もこえて世界中の人々に親しまれている。少なくとも年間200万人超と急増する富士河口湖町を訪れるインバウンドたちの心に櫻井の世界はどのように響くのか。古来より日本の芸術と信仰の源泉であり続けた富士山麓から、世界に向けてははたき櫻井芸術をお見逃しな

4月19日(土)～8月31日(日) 河口湖美術館（山梨県南都留郡富士河口湖町河口3170） ☎0555-73-8666 休火曜（4月29日、5月6日は開館） 一般800円 画9時30分～17時（入館は閉館の30分前まで）
◎ギャラリートーク：5月10日(土)、8月2日(土) 各日①13時30分／②15時／画30名 ※要予約